



Title	大阪府救急医療情報センター：昼夜連続の24時間体制 万国博の救急にも万全
Author(s)	
Citation	大阪公衆衛生. 1970, 24, p. 20-21
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/84347
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

大阪府救急医療情報センター

昼夜連続の24時間体制 万国博の救急にも万全

国鉄環状線森の宮駅から徒歩で2、3分のところ、府立成人病センター、府立公衆衛生研究所に而建つ大阪府公害監視センターの4階に大阪府救急医療情報センターがある。

まず目を奪うのが指令室。正面に大阪市、大阪府の全国がかかげられ、左右には主な病院が電光表示されている。通信関係の機械がずらりならぶ機械室、停電など非常の場合に備えて蓄電池が置かれている電池室もある。仮眠室があるのもこの特徴。

今や、交通事故など不慮の事故による死亡は、脳卒

中、がん、心ぞう病に次いで全国第4位にランクされていることは周知のとおり。

ちなみに大阪府の昨年1年間に発生した交通事故件数は55,600件。75,000名あまりが負傷し、800名近くが死亡している。毎日約200名の死傷者が出ている勘定だ。

このように激増する交通事故や産業災害による患者を迅速に、しかもたらいまわしすることなく救急病院へ搬送するためには、救急病院の受入状況等を常には握し患者を搬送する消防署、あるいは病院等へ適確な情報を提供することが必要。このために設けられたのが、大阪府救急医療情報センターである。

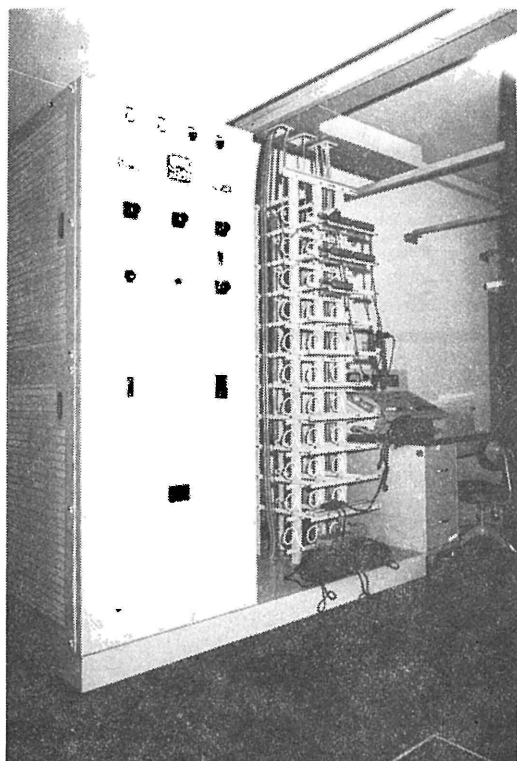
中枢部の指令室にある病院情報表示盤には現在200ヵ所の主な病院が表示されているが、将来は300ヵ所に増やして情報の充実化をはかる予定とのこと。

表示盤には空床の有無、科別の医師の在、不在が一目りょう然にわかるように明示されており、しかも2時間おきに大阪市ならびに府下25の消防署からテレメーターにより病院情報が送られてくる。したがって、救急医療情報センターでは常に新しい情報が把握されているというわけ。

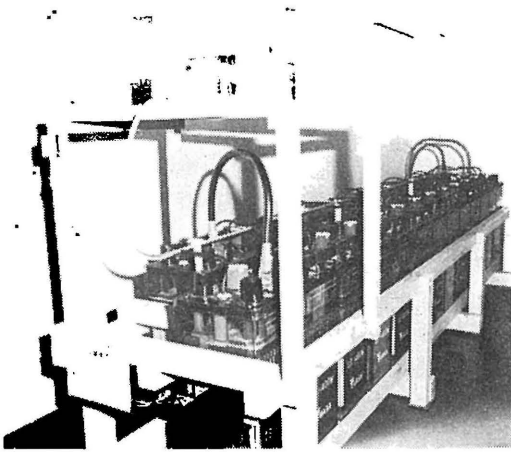
昨年の12月26日に開所し、ようやく軌道にのってきたところだが、現在(3月末までの受付件数は650件あまり。やまり、日曜、祝祭日が群を抜いて多く、1日に27件受付けたこともあるとか。

もちろん24時間勤務で、専任、兼務の職員あわせて12名が交代で従事し、いつでも情報を受け入れ、提供される体制をしいている。

突然、チャイムが鳴った。問合わせだ。池田消防本部。標示ランプが点滅している「こちら大阪救急センターです。池田消防本部どうぞ」「こちら池田消防本部です。ただいま管内で2才の男の子が高熱でひきつけをおこしています。管内に担当の医師がおりませ



(整流器試験台)



(非 常 電 源)

「なので近くの病院をさがしてください」「しばらくお待ちください」すばやく手がボタンへのびる。正面の電光表示盤が点滅した。病院へ受入確認の電話をする。「豊中市市民病院が待っています。担当医師は〇〇です」「どうもありがとうございました」この間約5分ぐらいか。

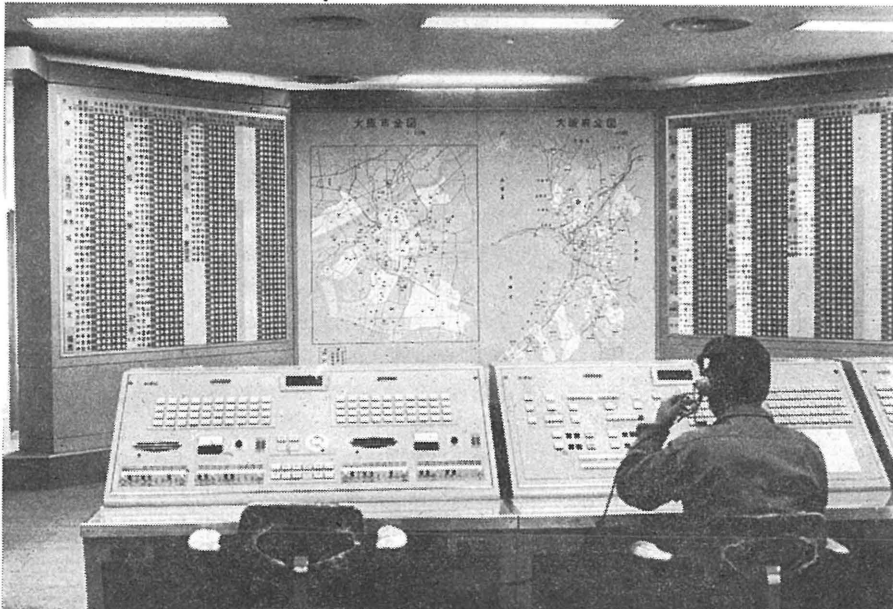
消防署、病院等からの問合わせは当然ながら夜8時頃から深夜にかけて多い。宿直医師も外科のみ、内科のみというところがほとんどだから、緊急に大手術を要する患者の場合はたいへん。医師は？ベッドは？血液は？次から次へと手術可能な病院をさがす場合もあるという。「病院に頼みこみ、患者を収容できる手は

ずを終えたときはホットひと安心する。休日、夜間を問わず各科の医師が当直している総合病院があれば助かるのですが……」早くそんな体制ができてほしいものの。

ところで、この救急医療情報センターは万国博覧会開期中の救急医療に重要な役割を果たすものとして期待されているが、先日の万博会場内で発生した食中毒集団発生時は大活躍。いち早く、関係先へ連絡するとともに病院情報を迅速に流して患者収容はスムーズに行なわれた。

万国博覧会の開期中は食中毒発生の時期とも一致し、今後ますます集団発生が懸念されている。さらに、前回のモントリオール博では切傷、骨折、日射病などの患者が4万人も発生し20名が死亡しているが、日本万国博は始まったばかりで連日450人（平均）の患者が出ており、この分ていくと会期中で8万人を突破する勘定になる。行楽のシーズンを迎えて入場者もドンドン増えており、思いがけない大事故の発生も心配されているが、救急医療情報センターによせられる期待も大きいというわけ。

公害監視センターの門前では、子どもが数人キャッチボールに興じていた。この子らが交通事故などにはあわないよう祈りつつ救急医療情報センターを後にした。



(指 令 室)